

附属機関等の名称	平成 29 年度第 1 回みよし市地域公共交通会議
開催日時	平成 29 年 5 月 29 日（月曜日） 午後 2 時から午後 3 時 50 分まで
開催場所	市役所 6 階 601・602 会議室
出席者	<p>【座長】 伊豆原浩二 【副座長】 松本幸正</p> <p>【委員】 稲見恒弘 野々山勝利 鈴木伸幸 加藤洋子 天野秀子 水野恭幸 新谷千晶 桑原良隆(代理 神谷) 近藤博之(代理 加藤) 山口直毅(代理 三浦) 加藤憲治(代理 竹中) 杉本忠久(代理 森) 深町明弘 岩月康男 志水昌吾(代理 緒方) 鈴木淳 宇野勉(代理 柴田)</p> <p>【事務局】 政策推進部長 政策推進部参事 政策推進部次長 企画政策課長 企画政策課副主幹 企画政策課主任主査</p>
問い合わせ先	<p>政策推進部企画政策課</p> <p>電話番号 0561-32-8005</p> <p>ファックス番号 0561-76 - 5021</p> <p>メールアドレス kikaku@city.aichi-miyoshi.lg.jp</p>
審議経過	<p>《議事》</p> <p>1. 座長あいさつ</p> <p>さんさんバスの運行が平成 11 年から始まり 19 年目に入りました。みよし市は南北に長いので、南北の交流の一役を担えれば、という考え方から始まったものと記憶しております。昨年の利用者数は 30 万人を超えており、喜ばしいことです。今後、少子化や高齢化がますます進んでいくことが予想される中で、皆さんがより利用しやすい公共交通の仕組みを再構築していくことが必要かと思えます。会議の中で今後の計画についても説明があるかと思えますが、皆さんからは知識ではなく、知恵を出していただきたいと思えますのでよろしくお願いします。</p> <p>※本会議は、さんさんバス利用促進審議会と兼ねるものとする。</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1) さんさんバスのバス停位置及びルート変更について</p> <p>(参考資料) (資料 1)</p> <p>【事務局】</p> <p>協議事項に入る前に、本年度から新しく委員になった方もみえますので、さんさんバス・乗り合いタクシーの概要についてご説明します。</p> <p>資料 1 ページ 参考資料をご覧ください。</p> <p>市内の公共交通は東西に走る名鉄バス、北部方面にある鉄道駅が主なものになっ</p>

ています。そこで、市内の交通空白地帯の解消、高齢者・移動困難者の社会参加の支援、公共公益施設などへ交通手段の確保、地域間の交流促進、交通の安全と円滑化の促進を目的に平成 12 年からさんさんバスの本格運行が開始されました。

現在では交流路線の「くろまつくん」と生活路線の「さつきちゃん」の 2 路線、1 日各 25 便の運行を行っています。

運行は 6 台のバスで行っていますが、平成 28 年度には 2 台のバスを更新しています。

続いて乗合タクシーについてです。さんさんバスの 2 路線のバス停でカバーしきれない地域をカバーするために、平成 14 年 11 月からの実験運行を経て平成 16 年 10 月 1 日から本格運行を開始しました。資料 6 ページをご覧ください。さんさんバス・乗合タクシー路線図(市域カバー図)です。バス停徒歩圏内が実線で描かれている範囲です。乗合タクシー乗降場からの徒歩圏内が点線で描かれている範囲です。この 2 つを合わせるとカバー率はおよそ 96 パーセントとなっています。

なお、平成 28 年度は三好下地区に新たに乗合タクシー乗降場を設置しています。以上がさんさんバス、乗合タクシーの概要です。

それでは、改めまして協議事項 1 乗合タクシー乗降場の新設について、資料 7 ページをご覧ください。

昨年の地域公共交通会議の中で、好住地区からさんさんバスのバス停まで、距離としては 500m の徒歩圏内となっていますが、高齢者が多く、バス停までの坂道を歩くことが年々困難になっているというご意見を頂戴しておりました。また、その後、平成 29 年 1 月 30 日に好住行政区から行政区要望として、また平成 29 年 2 月には好住行政区の 144 名の方から乗合タクシー乗降場設置についての署名をいただいていることを受けての提案でございます。資料右側の地図をご覧くださいとわかるとおり、本来であれば、バス停まで 500 メートルを徒歩圏内としており、カバーできている範囲内ではございますが、地区内の高齢化率や、坂道を通らないと、どのバス停にも行くことができないことが理由として挙げられます。そんな中、実際にこの乗合タクシー乗降場の設置について現場を確認したところ、確かに坂道がきつく、高齢者が徒歩で移動するのは困難だということがよくわかりました。

乗合タクシー乗降場の新設の詳細については、乗合タクシー乗降場を県営東山住宅敷地内に設置し、アイモール・イオン三好店バス停まで乗合タクシーで送迎する形を考えています。最寄りのバス停はこのバス停以外にもありますが、利用者の利便性向上のため、くろまつくん、さつきちゃん双方が通過し、多くの方が利用することが見込まれるアイモール・イオン三好店にしたいと考えています。

乗合タクシー乗降場のイメージ写真は、好住地区の集会所と東山住宅 2 棟の間への設置の予定場所のイメージ写真となっております。

また、設置に向けての流れとして、事前に確認していることとして、公安委員会からは 5 月 18 日、県営住宅ですので持ち主の愛知県からは 5 月 26 日、好住行政区からは 5 月 1 日にそれぞれ支障なしとの確認が取れています。

今後の予定としましては、本日の子に会議で承認が得られれば、7 月 15 日号の広

報に掲載してPRを測り、8月1日から運行を開始する予定です。

以上です。

【座長】

ただいま説明がありました協議事項（1）について、ご意見ご質問ございませんか。

【稲見】

本行政区では高齢化が進んでおり、さんさんバスのバス停まで、行きは下り坂で良かったのですが、帰りにはバス停から帰宅するまでの間に2、3度休憩をしないと帰宅できないような状況となっているので、このような提案をさせていただきました。また、昨年度中に本行政区の中でも免許証の返納者が4名出ています。

【松本副座長】

みよし市のバス停までの徒歩圏内までの基準が500mとなっていますが、実際のところ500mではお年寄りや坂道を考えると厳しい基準かと思います。急に変えることはできないかと思いますが、今回の協議事項のこともありますが、今後に向けてこの500mの基準を見直す予定はありますか。

【事務局】

現在、本市の公共交通網形成計画の策定に関しては、平成28年度から策定中のみよし市第2次総合計画の中で公共交通に関する方針を定めてまいりますので、その方針に従って平成31年度から策定を予定してまいります。その中でバス停までの距離の基準についても検討を図っていく予定です。

【松本副座長】

今回のような住民の方からの声を受けての提案となっていますが、今後どんどん要望が出てきた場合にはそうするつもりか事務局の意見をお聞かせください。

【事務局】

今回の好住行政区の場合にも行政区からの要望に基づき、実際に現地を確認して、必要だと感じた中で、どのような形だったら皆さんが使いやすいものとなるか検討した上で、対応できる方策についての提案とさせていただいております。これからもこのような要望があった場合には、個々に検討してまいります。すぐに路線を変更し、バスを回すということは難しいかと思いますが、まずは乗合タクシー乗降場を設置して利用状況を見たいと思います。

【松本副座長】

要望が出ればその都度検討して、という形で良いかと思います。このとき問題となってくるのは、要望があって設置したバス停や乗合タクシー乗降場が全く使われていないというような場合です。ぜひ皆さんにはより多くの利用をさせていただいて、作ってよかったと思われるようなバス停を目指していただければと思います。また利用者が大変増えて、乗合タクシーでは対応しきれなくなった場合、バスの路線変

更についての検討も必要になってくることとなります。

【三浦】

私どもの会社ではタクシー事業も行っており、事業者の立場から言いますと、好住地区からアイモール・イオン三好店バス停よりも、保健センター又はみよし市役所バス停が本来でしたら乗り継ぐべきバス停と考えます。しかし、利用者の立場を考えますと、アイモール・イオン三好店に運行をした方が利便性が向上すると考えられますので、運行する方向で考えたいと思います。

【伊豆原座長】

サービスを提供する立場とサービスを受ける立場で、500m をバス停からの徒歩圏内と考えることについて、500m 以内にいる人からは平等に徒歩圏内と考えることができるということです。さんさんバスの乗合タクシーの仕組みはバスに乗り継がなくても良いという仕組みで運行をしています。簡単に言うと、好住地区の方がタクシーを使ってアイモール・イオン三好店に行くことができるということを表しています。これはアイモール・イオン三好店に関わらず、市内の他の場所からバス停に向かうのに、坂道等で行きづらい場所がまだあるかと思います。今後公共交通網形成計画を定めていくのにあたり、私たちは整理していかなければならない点です。今回の乗合タクシー乗降場はバス停から 500m 圏内ですので、他の地域でも同じようなことが起こっていれば検討の材料となってきます。

【鈴木 伸幸】

私どもの地区は明知下地区の乗合タクシー乗降場があり、明知下公民館へ乗継を行っています。市民病院に向かおうとすると、明知下公民館でバスに乗り継いでいかないといけないのですね。

【事務局】

その通りです。明知下地区乗合タクシーの運行区間は明知下公民館バス停までとなります。

【鈴木 伸幸】

タクシーからバスに乗り継いで行くと、非常に時間がかかるのでなんとか短い時間で市民病院又は公共施設に向かうことができる形にしていだけないでしょうか。

【伊豆原座長】

意見の主旨は好住地区の乗合タクシー乗降場の話ではなく、明知下地区の話でよろしいですか。ご提案ということで。

【事務局】

さんさんバスの乗合タクシー乗降場の基準は、バス停から 500m 圏内にない地域の救済策としてできたものです。市民の皆さんの要望事項をこれからもいろいろ聞い

て、今後の公共交通の計画への検討課題と考えます。

【鈴木 伸幸】

これからの課題としてどうかと思って発言しました。

【伊豆原座長】

好住地区の乗合タクシー乗降場の件については、今の仕組みで考えましょう。ここ1、2年の中で公共交通網形成計画を策定していくことにあたり、よく考えていきましょう。公共交通を考えていくうえで、事務局だけでなく、皆さんで考えましょう。

【松本副座長】

本来のルールで考えたら、保健センターや市役所につなぐべきだったと思います。アイモール・イオン三好店につなぐことで、明知下の話も出てきたのかと思います。この点について、事務局は誰に尋ねられても説明できるようにしておく必要があるかと思います。

【森】

話は変わりますが、さんさんバスに乗合タクシーが乗り継ぐという形は先進の事例として他の地域から視察等は受け入れをされていますか。

【事務局】

昨年度、名古屋市から視察受け入れをしています。また、最近では三重県の東員町から視察の依頼を受けています。さんさんバスの視察の希望が多くある理由としては、スケールメリットと立地条件、市内に走っている公共交通網が比較的バランスが取れているということから、他の自治体や、大学からも視察を受け入れています。

【森】

実際に視察に来られた自治体の中で、取り入れをされたという話がありますか。

【事務局】

ここ最近に視察に来られたところでは聞いていませんが、過去には安城市が乗合タクシーを参考にされたと伺っています。

【森】

そうですね。安城市は参考にしたと聞いています。

【伊豆原座長】

協議事項1に関しては、事務局の説明責任ある内容ですが、このことをできる前提で承認いただけるということですのでよろしいでしょうか。

<全員承認>

(2) 障がい者のさんさんバス運賃無料化等の要望について

(資料2)

【事務局】

協議事項 2 障がい者のさんさんバス運賃無料化等の要望についてご説明します。

資料 8 ページをご覧ください。平成 29 年 4 月 26 日、みよし市で障がいのあるお子さんを持つ保護者の会である「みよし市手をつなぐ親の会」からさんさんバスに対する要望がありました。

内容としましては、障がい者本人の無料化と福祉事業所及び三好特別支援学校に安全に通うことができるバス停の設置についてです。

回答についても、資料にあるとおりの内容ですすでに回答をしておりますが、以前からも同じ要望をいただいております、今回この会議で協議をしていただきたいとの要望がありましたので、この場で協議事項として提案させていただいております。

【座長】

どなたかご意見ございますか。

【松本副座長】

みよし市については、運行当初から一貫して障がいに関係なく、年齢に関係なく料金をいただいております。交通政策としては良いと思います。一方で障がい者対策・高齢化対策としては、何らかの手立てを必要としていると思います。障がい者や高齢者担当部署と連携して、将来的に担当部署からの福祉・高齢者支援対策として検討していったらどうかと思います。

【新谷】

私も松本先生の意見に賛成です。バス運行経費に対して 1 回あたり 100 円の料金は、高額とも思いません。私も障がい者の活動に関わったことがあります、何でももらえることが良いと考えている人は少なく、自分のお金を使って乗る、ということは自分も同じ市民の一員であると、権利として考えていると思います。これによって経済的負担がどれだけ増えるのかは分かりませんが。

【事務局】

特別支援学校や福祉事業所にバス停を設置するのは難しいと回答させていただいた理由としては、特別支援学校にバス停を設けた場合には、今でも目的地まで時間がかかると言われている中で、時間が余分にかかってしまうことから、また、利用者数からも見て、乗合タクシーの設置をもって現状でお願いをしています。

【伊豆原座長】

今のところ、このような状況であるという具体的な状況を述べていただいて、利用者数などとバスを回すとかかる時間が 10 分位は要すと考えられて、所要時間の延長もあるので、今のところは難しいといった理由を説明し回答されてはどうでしょう。

【松本副座長】

特別支援学校や福祉事業所の最寄のバス停までの、空間の安全性についてを聞かれているのではないのでしょうか。そのあたりはどうですか。

【事務局】

特別支援学校までは、自動車の通りも少ない細い道です。また市内に福祉事業所は8カ所ありますが、特に危険と感じられる場所は見受けられませんでした。

【松本副座長】

健康な人の視点からでは気づきにくい、障がいをお持ちの方にとっても安全な道なのかをきめ細やかに、担当する部署の方と確認していただきたい。

【伊豆原座長】

バス停環境を見ていくと、特別支援学校のバス停以外にも危険のあるバス停もあるかもしれません。この要望だけでなく、新たな計画を策定する際には、いろいろなことを検討して計画に載せていく必要があると思われまます。計画策定に当たり、皆様のご意見がたくさん出てくるのは大変良いことです。ぜひ、皆さんも帰宅されてから、ご友人、家族等とこの会議のことも話題にしていいただければと思います。今回の要望に対する回答は説明のとおりでよいかと思ひます。

3. 報告事項

(1) 平成28年度さんさんバス実績報告について

(資料3)

【事務局】

平成28年度さんさんバス実績報告についてご説明します。資料9ページをご覧ください。

さんさんバスの利用状況について、年間利用者数は301,581人で昨年度比14,269人増となっています。

乗合タクシーの利用状況については1,840人、昨年度比285人増となっています。また、平成23年度から平成24年度の間に利用者数が大幅に減少している要因としては、さんさんバスの路線改編により、今まで乗合タクシーで運行していた路線をバス路線に変更したことにより、乗合タクシーの利用者数が減ったものです。

運行経費については110,345千円で、そのうち乗合タクシー分が432千円です。収入については27,809千円が料金収入、国からの補助金が20,045千円、市の負担金が62,491千円でした。

利用者1人あたり市負担分については運賃100円に対して208円、市民1人あたり市負担分は1,030円でした。なお、参考に別添の資料3-1、近隣市町における自主運行バス等の市民1人あたりの負担額については、長久手市の1,667円を最高

に尾張旭市の 457 円が最低となっています。みよし市は下位から 3 番目です。

資料 18 ページ、平成 28 年度バス停別乗降者数については、上位からアイモール・イオン三好店、豊田厚生病院、三好ヶ丘駅となっています。また、前年度から乗降者数が増加したバス停は、上位から豊田厚生病院、市役所西、アイモール・イオン三好店となっています。昨年度から最も乗降者数が減少した保健センターバス停ですが、サンライブ開館により図書館の最寄バス停が保健センターから市役所西に移動したことによるものと考えられます。

資料 24 ページ、タクシー乗降場別乗車数では、苜生地区から福谷、打越地区 3 から三好池東が 400 人以上の利用となっています。

バスロケーションシステム（携帯サイト）利用状況については、平成 28 年 5 月から新しいバスゲットというシステムに変わったので、登録者数は 3 月末でも 250 人余りですが、このシステムになってからは登録をしなくてもバスの運行状況が確認できるようになったので、アクセス数は一定数以上あります。

その他については資料をご確認ください。以上です。

【伊豆原座長】

ただいまの報告事項（1）について、ご質問等ありましたらお願いします。

平成 25 年あたりから順調に利用者数を伸ばしており、人口の約 5 倍の利用をいただいているのは愛知県内でもあまりないと思います。あと 1 点、これからの計画について考えていく必要があるのかと思います。

（2）平成 28 年度地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価について （資料 4）

【事務局】

平成 28 年度地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価について、国土交通省から頂いている補助金について、計画と事業評価を行う必要があります。資料 4 のとおり平成 28 年度分について事業評価を行いましたので報告します。

評価対象事業は、陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業の地域間幹線系統です。さんさんバスは豊田市の豊田厚生病院に乗り入れをしていることから、この補助金の対象となっています。

評価の内容としては、事業実施の適切性、目標・効果達成状況ともに計画通り、目標達成できており、いずれの評価も A としております。また、複数市町村を跨ぐ系統としての役割として、みよし市と豊田市を跨ぐ利用者はくろまつくん 18%、さつきちゃん 12% であり、ともに広域的な路線の役割を果たしていると考えられます。

今後の事業の改善点としては、利用者の増加に伴い輸送力が将来不足する場合があります。考えられ、車両等について費用面も含めて検討していく必要があります。

【伊豆原座長】

ただいまの説明について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

【松本副座長】

目標と効果では、どのような目標でどのような効果があったかを報告しているので、皆さんにも目標を明示していく必要があるかと思えます。今年度、来年度の計画を発表していただくのが良いかと思えます。また、この事業評価は県で国に報告をしているものをみよし市で報告していただいているということですね。県の方からも説明をお願いできますか。

【事務局】

みよし市の計画は、今の時点では特に今までと変更をしない予定です。

【松本副座長】

利用者数の数値目標としてはいかがですか。

【事務局】

年々全体の利用者数が増えていますので、今後も利用者数については上方の目標を設定してまいります。

【伊豆原座長】

計画は県で作成していただくのですね。

【神谷】

愛知県では愛知県バス対策協議会を設置しており、この中で地域間幹線系統確保維持計画を策定しており、この計画が国で認定されると国庫補助の対象となります。さんさんバス以外にも名鉄バスの星ヶ丘豊田線についても国から補助金をいただいております。計画については県で策定しておりますが、計画に盛り込む利用促進策や実際に使っていただくのは市民の皆さんですので、くろまつくん、さつきちゃん、名鉄バスについてもご利用についての関心を持っていただけるようお願いいたします。

【伊豆原座長】

今年も申請していただくのですよね。

【神谷】

県の協議会の開催の目途はまだ立っておりませんが、やらせていただく予定となっております。

(2) 平成 28 年度さんさんバス路線利用状況調査結果について

(資料 5)

【事務局】

平成 28 年度さんさんバス路線利用状況調査結果について、資料 30 ページをご覧ください。

調査日は平成 28 年 11 月 22 日と 11 月 27 日の平日、休日の 2 日間に行いました。調査方法はバス利用者数を車内にいる調査員が乗客にバスの乗降場所を聞き取る方法で行いました。

調査実績は 11 月 22 日（火）、867 名、11 月 27 日は 595 名でした。

バス利用状況として、利用者数は平日、休日ともに上位は、豊田厚生病院、アイモール・イオン三好店、三好ヶ丘駅、ベイシア三好店等でした。

平日・休日別の利用実態では、障がい者については、平日・休日の利用実績に大差なく、高齢者については地区内移動・地区外移動ともに平日の方が多くなっていました、

平成 28 年度地区別の流動状況については、北部地区内の移動が一番多く、次いで中部から北部、北部から中部の移動があります。中部内、中部から南部の移動が後に続いています。南部内、北部から南部、南部から北部の移動は非常に少なくなっています。

総括としては、今回の調査については昨年よりも平日・休日ともに利用者数が減少しているが、「高齢者・障害者」については平日・休日ともに利用者数がほぼ同程度でした。ただし、この調査日に限ったことですので、全体としてはあてはまらない場合もあります。

【伊豆原座長】

ただいまの説明について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

みよし市のきたよし・なかよし・みなよしの 3 地区間で交流ができると良いということで南北に長く続く路線となっておりますが、その区間毎の移動を分析していただいております。ご意見もないようですので、この件についてはご了解いただければということですのでよろしくお願いします。

4. その他

今後の地域公共交通に関するスケジュールについて

(資料 6)

【事務局】

地域公共交通に関するスケジュールについてご説明します。

「三好町交通基本計画」が平成 19 年度から平成 28 年度末までで計画期間が満了となっています。現在、第 2 次みよし市総合計画を策定中であり、公共交通についても総合計画の中で方針を決定してまいります。

会議の開催については、地域公共交通会議を開催を概ね年 1 回、計画策定時の平成 31 年度にはさんさんバス利用促進審議会を開催します。

調査の実施については、2 年に 1 回利用実態調査を行い、利用状況を把握します。

「みよし市地域公共交通網形成計画」の策定については、平成 31 年度・32 年度の 2

か年をかけて策定していく予定です。その方針に従ってさんさんバス路線・ダイヤ改編を検討してまいります。

【新谷】

今のご説明ですと、「三好町交通基本計画」が平成 28 年度で満了となっており、平成 29 年度、30 年度については空白となってしまうのでしょうか。

【事務局】

今後、平成 31 年度・32 年度の 2 年間をかけて「みよし市地域公共交通網形成計画」を策定してまいります。それまでの 2 年間は、個別の交通計画はありませんが、その上位計画である「みよし市総合計画後期計画」の方針に沿って進めてまいります。

【新谷】

そういうことで大丈夫なのですね。今現在 30 万人以上の方が利用しているさんさんバスが急に変わってしまうというようなことは、市民の皆さんが困ってしまうので、当然継続されていくものだとは思っておりますので、それで良いと思います。私たちはその辺りの整合性がうまく取れていけばいいと思っております。

【事務局】

「三好町交通基本計画」については計画期間が終了している訳ですが、この計画の基となる「みよし市総合計画後期基本計画」が平成 30 年度まで計画期間となっており、その中で公共交通のことについても謳われておりますので、現在策定している「第 2 次みよし市総合計画」の策定後に OD 調査で、経年的に変化を取っていくのは必要かと思っております。起終点についても調べるとよいかと思っております。

【森】

今ご説明がありました。今までは年に 1 回程度の開催のあった今後の地域公共交通会議の開催の予定についてはいかがでしょうか。

【事務局】

大きなダイヤや路線の改編がなければ、概ね 1 年に 1 回の頻度で開催をしていく予定です。今後新たな網形成計画を検討していく中では、さんさんバス利用促進審議会も併せて開催回数が増えていくことと考えています。

【森】

平成 31 年度から準備をするのにあたり、平成 30 年度公共交通網形成計画策定時に年 1 回の開催では厳しいのではないのでしょうか。

【事務局】

具体的には新しい総合計画、今年の基本構想、来年度は基本計画を策定していくこととなります。新総合計画のいろいろな施策については平成 30 年度に策定してまいります。皆さんからのご意見をもっと伺った方が良いと考えますので、平成 30 年

度は予定では 1 回となっておりますが、今後増やすかもしれませんので、その際にはよろしくお願ひします。

【森】

それでは確認ですが、今年度の開催は 1 回の予定となっておりますが、その通りでよろしいでしょうか。

【事務局】

特に大きな変更がなければ 1 回の予定ですが、何か議題があれば開催します。

【松本副座長】

今、我々は何の計画のないまま政策を進めている状態となっております。しかし、まずは総合計画がありますので、今まで行っている政策が間違っていないのであるならば、今までの計画を延長していくということを示していただく、また新しい計画の策定については今までの計画の振り返りが必要かと思ひます。2 年間の期間がありますので、基本計画についての検証をしていった中で、今後の方向性を検討していくことが必要かと思ひます。そう考えますと年 1 回の開催では少し心配だと思ひますので、ご検討いただければと思ひます。

【伊豆原座長】

今まで 10 年間、交通基本計画を実施してきたわけですから。この計画を評価しなければいけません。チェックが必要です。年間 30 万人のご利用があるので、今までの方向性はそれほど間違った方向だったとは思ひません。そこから見て、個々に政策は何をやってきたのか、そこについても評価しておく必要があります。これから新しい計画ができるまでの間に 3 年間の空白ができてしまいます。この空白の期間のよりどころをどうするか、市民の皆さんから公共交通の方向性を問われた時にお答えする術がない、ということになってしまいかねません。計画の方向性や基本的な考え方を変える必要はないと私は考えています。この考え方についても会議を何回開催するかはさておき、皆さんで議論をしていく必要があると思ひます。その後公共交通網形成計画に向かっていくこととなると思ひます。どのようにしていくのかについては、平成 31 年度にはよく議論しなくてはいけません。平成 29 年度から 31 年度までをどううまくつないでいくのかが重要です。

先程愛知県からも話がありましたが、みよし市を取り巻く隣接する市町が何をしているのかをよく知る必要があります。4 月から愛知医科大学には新しくバスターミナルができて、長久手イオンまで新しい路線が繋いでいます。また、赤池駅から長久手イオンまで名鉄バスさんが運行を始めています。また東郷町、赤池駅周辺でも新しい店舗がオープンしようとしています。そして愛知県からは、あいち公共交通ビジョンで愛知県がどのような方向で公共交通を進めてくのかを示しています。本日この会議でそのような資料が出ていないこともありますので、市の総合計画だけ

でなく周りの状況を皆さんにも知っていただく必要があるかと思い、この話をしました。平成30年度あたりを上手に使っていただいで、計画の策定に向かっていただければと思います。周りの状況がどんどん変わっていますので、新しい情報を仕入れていただければと思います。この会議は情報交換の場としても使っていただければと思います。この会議は何かを決定するためだけのものではありませんので、気軽に話のできる場としていただければと思います。

【緒方】

愛知県は現在全国交通事故死ワースト1となっています。75名のうち35名の高齢者が亡くなっています。今後も高齢者の免許証の返納によって、高齢者の交通事故が防げればと思います。また高齢者の方の多い世帯からは、乗合タクシー乗降場の希望が出るかと思しますので、検証についても引き続きよろしくお願ひします。

またみよし市においては、将来自動運転路線が計画されていると聞いています。その中で、明知保育園から三吉小学校までの路線があると聞いていますので、その時の利用状況のアンケート調査についてもお願ひしたいと思しますので、よろしくお願ひします。

【伊豆原座長】

大切なことと思しますので、よろしくお願ひします。

それでは、事務局にお返しします。

【事務局】

これで、本日のすべての議事を終了いたしました。

それでは会議の終わりにあたりまして、政策推進部長の増岡よりごあいさつ申し上げます。

【政策推進部長】

本日はありがとうございました。総合計画の中では、みよし市に住み続けたいと思われまちなちを目指して、これからはっきりやってまいりたいと思ひます。公共交通の発展も、皆様にみよし市が選ばれる重要な条件だと思ひます。さんさんバスも、18年間で年間30万人に使っていただけるようになりました。しかし、行政評価アンケートによりますと、まだまだ公共交通は足りない、というご意見をいただきます。冒頭の座長のあいさつにもありましたが、みよし市の公共交通の再構築を皆さんのお知恵を拝借して進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

本日は、どうもありがとうございました。

—閉会—